

事務事業マネジメントシート(令和 3年度実績と令和 4年度計画)

令和 4年12月23日更新

事務事業名		市県民税課税事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input checked="" type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	自治の健康			所属部	市民生活部	課長名	合志 義浩
	施策	3	財政の健全化			所属課	税務課	担当者名	松岡、渡邊
	施策の柱	14	自主財源の確保			所属班	市税班	(内線)	1124
予算科目		会計一般	款 2	項 2	目 2	事業連番 11138	根拠法令 地方税法・合志市税条例		
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 3年度で終了 <input type="checkbox"/> 3年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・地方税法(昭和25年)に基づき、個人市民税(個人県民税を含む)、法人市民税を適正に課税する事務。 ・就業構造の多様化、生活様式の変化で課税対象の把握が難しくなっており、毎年行われる地方税法改正で、課税も複雑な体系になっている。 ・eTAXによる国税・地方税の情報連携が進んでおり、個人の確定申告や法人税の申告も電子で行う数が増加している。 ・マイナンバー制度の導入による情報連携が進み、税情報の活用が増加している。 ・令和3年度課税においては、税制改正により基礎控除等の変更が行われた。1月以後提出する給与支払報告書又は公的年金支払報告書の提出すべき枚数(前々年度の枚数)が100枚以上であるときは、eTAX又は光ディスク等による電子提出が義務化された。 ・令和5年度に納付書へのQRコードの導入による共通納税システムによる納付方法の拡大、令和6年度課税からは市県民税特別徴収の納税通知の電子化が予定されており、令和4年度から令和5年度にかけてシステム改修や試験運用が予定されている。 ・地方公共団体情報システムの標準化に関する法律に基づき、令和7年度中に国が定める標準仕様に基づく基幹システムへ移行することが計画されている。
【業務の流れ】	【市県民税】(当初課税)⇒給与支払報告書一括票送付・收受⇒所得申告受付⇒紙データの入力業務委託⇒データの收受・取り込み作業⇒もれ申告書等データの電算入力⇒eTAXによる国税申告データ等の取込⇒課税処理(特別徴収、普通徴収)(随時課税)未申告者調査、扶養者調査、事業所課税、家屋敷課税、特徴から普徴あるいは普徴から特徴への異動に基づく月次更新処理など【法人市民税】決算月に合わせて申告書及び納付書を送付(確定申告、予定申告、中間申告)、申告納税制度であるため申告書の内容及び納税額を確認する、企業の決算により経営が悪化した場合は、予定納税した税金の還付を行う。
【主な予算費目】	報酬(臨時職員)、職員手当等、需用費(消耗品費、印刷製本費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料、負担金補助及び交付金
【意見や要望】	納税者からの課税内容の問合せや、税金が高いなどの苦情が多い。 重要な自主財源の一つとして、なお一層の公平・公正な課税事務が求められている。 平成30年度の税制改正で森林環境税導入の地方税法改正が行われており、令和6年度課税より市県民税均等割課税が1,000円増税となることが決定しているため、納税者からの苦情が予想される。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 3年度実績(3年度に行った主な活動)(DO)	4年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
【市県民税】2月中旬から1か月間、市内4か所で申告受付を行った。給与支払報告書、年金支払報告書、確定申告書、住民税申告書等の課税資料に基づき、当初課税を決定し、納税通知を発送した。特徴と普徴の異動や修正申告等に基づき月次で異動更正を行い納税を通知した。・納税義務者 30,301人(296人増)、うち特別徴収(年金含む) 26,010人(489人増)、うち普通徴収4,291人(193人減) 【法人市民税】各法人の事業期間終了時期に申告書と納付書を送付した。提出される申告書と納税額を確認する。予定納税額より決算で経営が悪化した場合は税の還付を行った。無申告である法人を調査し、申告の勧奨を行った。	【市県民税】2月中旬から1か月間、市内4か所で申告受付を行う。給与支払報告書、年金支払報告書、確定申告書、住民税申告書等の課税資料に基づき、当初課税を決定し、納税通知を発送する。特徴と普徴の異動や修正申告等に基づき月次で異動更正を行い納税を通知する。 【法人市民税】各法人の事業期間終了時期に申告書と納付書を送付。提出される申告書と納税額を確認する。予定納税額より決算で経営が悪化した場合は税の還付を行う。無申告である法人を調査し、申告の勧奨を行う。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由
→ ア: 課税資料処理数【市県民税】	件	電子化などの制度改正に伴うシステム改修委託料の増、電子化に対応する業務量増加に伴う時間外手当の増
→ イ: 申告書を送付した件数【法人市民税】	件	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位) 人	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
市民及び市内登録法人	人	→ ア: 納税義務者数【市県民税】
	人	→ イ: 市内登録法人数【法人市民税】
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位) 件	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
申告に基づき、適正に課税する	件	→ ア: 未申告通知による申告件数【市県民税】
	人	→ イ: 申告を行った法人数【法人市民税】
*③成果指標設定の理由と 4年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
【市県民税】未申告の場合、国保税等に影響が出る場合もあるため、未申告者で通知により申告した件数を指標として設定した。		0
【法人市民税】市内に事務所を設置している法人の全てが申告するものであるため、申告を行った法人数を設定した。		

各指標・総事業費の推移	単位	31年度	2年度	3年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア 件	68,636	70,946	80,000	71,457	80,000	80,000	80,000	80,000
	イ 件	1,542	1,532	1,540	1,655	1,550	1,560	1,570	1,580
② 対象指標	ア 人	29,625	30,005	30,100	30,301	30,100	30,100	30,100	30,100
	イ 人	1,198	1,259	1,270	1,309	1,280	1,290	1,300	1,310
③ 成果指標	ア 件	1,218	1,338	1,200	1,657	1,200	1,200	1,200	1,200
	イ 人	1,201	1,315	1,300	1,334	1,310	1,320	1,330	1,340
投資入費量	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円	18,369	24,788	26,122	27,029	29,474	30,000	30,000
	地方債	千円							
	その他	千円							
	繰入金	千円			564				
	一般財源	千円	7,734						
	(A) 事業費計	千円	26,103	24,788	26,686	27,029	29,474	30,000	30,000
	(A)のうち指定経費	千円	5,840	7,020	7,151	9,108	8,701	12,400	12,400
	(A)のうち時間外、特勤	千円	4,735	7,020	7,151	9,108	8,701	8,700	8,700
	人件費	人	24	24	24	9	24	24	24
延べ業務時間	時間	12,057	12,530	12,500	11,515	12,500	12,500	12,500	
(B) 人件費計	千円	47,781	49,405	49,800	45,023	49,800	49,800	49,800	
トータルコスト(A)+(B)	千円	73,884	74,193	76,486	72,052	79,274	79,800	79,800	

事務事業名	市県民税課税事業	所属部	市民生活部	所属課	税務課
-------	----------	-----	-------	-----	-----

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は3年度の事後評価、ただし複数年度事業は3年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 3年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	② 4年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 申告相談による未申告者への勧奨、税務署及び関係市町村からの情報収集等を行い未申告者を把握し、未申告通知（申告依頼）を送付しているため、目標を達成する見込みである。
有効性評価	③ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 申告制度のさらなる周知や申告相談など、未申告者を減らす努力を続けることで、成果の向上が期待できる。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 地方税法、市税条例等の規定に基づく事務であり、類似事業はなく他に手段がない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事業費は個人市民税の課税業務（課税客体の把握（所得申告）、課税通知等）に係る最低限必要な経費を計上しているため、事業費の削減余地はない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 市県民税を適正に課税する（申告書の收受、申告内容の入力・確認作業等を短期間で行う）には、現状の人員で事務を行う必要があり、人件費の削減余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 地方税法、市税条例等の規定に基づく事務であり、受益機会・費用負担は公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 地方税法の規定に基づく市の固有事務である。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

市の自主財源確保の大きな柱のひとつとして実施する市県民税課税事業を、人口が増加し課税客体も増えている中で、法に基づいて適正な課税算定を行うことができた。また、税の未申告者を減らすため、未申告通知の発送を行い、申告の動機づけを行った。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p>																						